

入所および退所における訪問活動から チームアプローチに繋がった一症例

介護老人保健施設 ぼたん園
理学療法士 ○宮本 朋美
村上 久美子
里井 宏之
黒土 達也

発表者のCOI開示

発表演題内容に関連し、発表者らに開示すべき
COI関係にある企業などありません

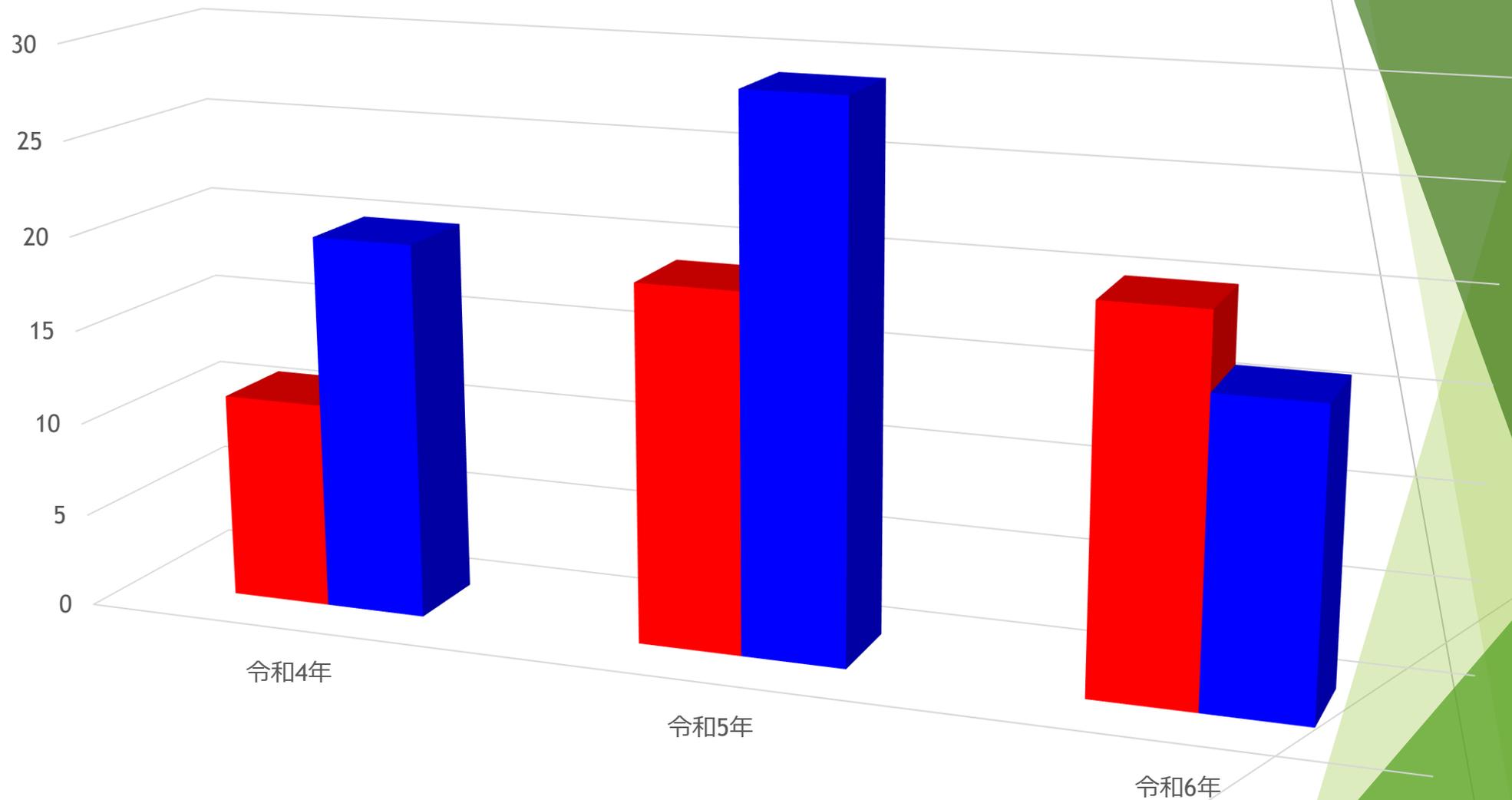
<はじめに>

当園は、2018年から超強化型の施設基準を取っており、在宅強化に積極的に取り組んでいる。

在宅復帰を目指すうえで、入所前後や退所前後に行う訪問指導は重要であり、当園でも積極的に実施している。

今回、妻の認知症がある中で、自宅での生活に不安のある利用者において、訪問の実施による多職種アプローチがスムーズな在宅復帰につながった1症例をここに報告する。

訪問指導実施件数（R4.4～R6.9）



※4月～9月までの実施件数での集計。

■ 入所前後 ■ 退所前後

<症例紹介>

- ・ 80代 男性 要介護 1

- ・ 妻と二人暮らし

(キーパーソン：長女➡近所に住んでおり、協力的)

- ・ 日常生活自立度：B 1 認知症自立度：Ⅱ a

- ・ 既往歴：パーキンソン病、起立性低血圧、腰部圧迫骨折、腹部大動脈瘤、脊柱管狭窄症
(起立性低血圧により、意識消失をされた事もあり)

- ・ 入院前のADL：身辺動作自立、杖歩行自立（フラツキあり）

- ・ HDS-R：入院時25点(転倒リスク高いも認識乏しくセンサー対応)
入所時26点(転倒に対する認識乏しい、交流少ない)

<入所時ADL : Barthel Index>

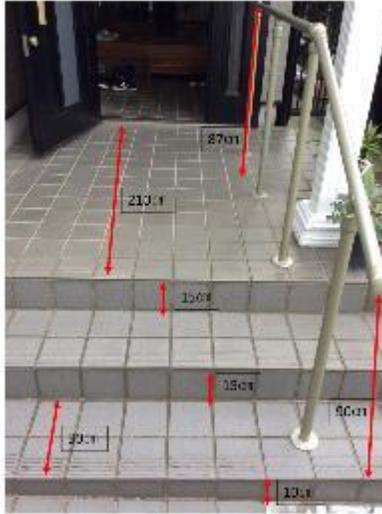
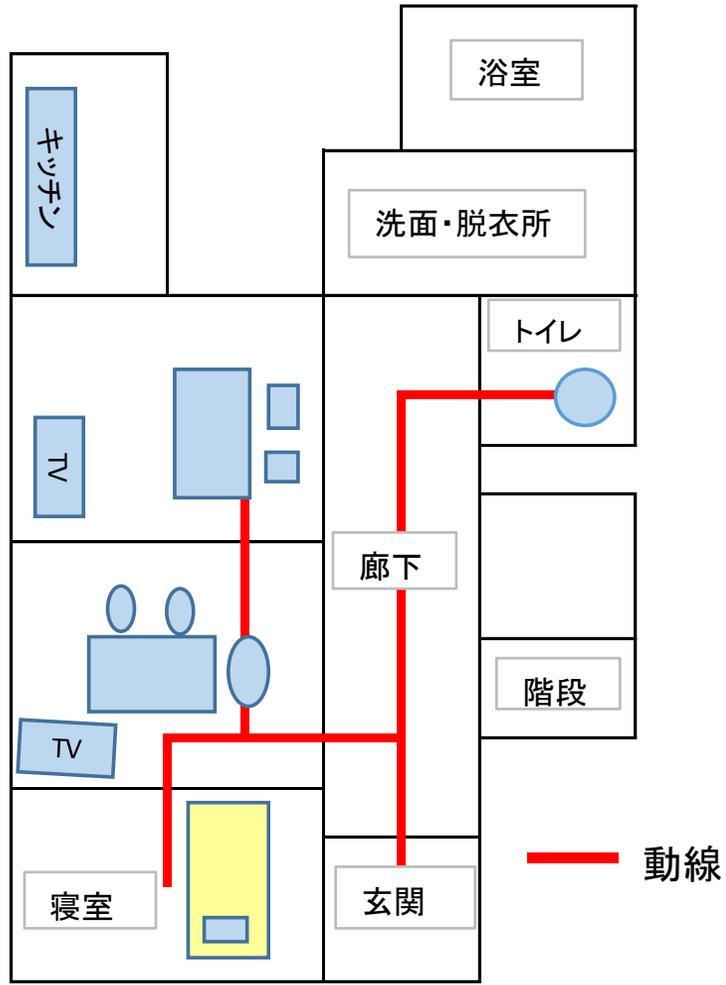
項目	点数	特記
食事	10	
移乗	10	
整容	5	
トイレ動作	5	日中は身障者トイレ、夜間はPトイレ
入浴	0	
歩行	10	ハッピーミニ歩行車
階段昇降	5	
更衣	5	下衣介助
排便コントロール	5	
排尿コントロール	5	
合計	60点	

※パーキンソン病による「すくみ足」や「姿勢障害がある」は評価時はみられず、夜間の方が調子が悪くなりやすい傾向があった。

<入所後訪問>

<玄関～廊下>

<居室・トイレ>



<訪問後の環境設定>

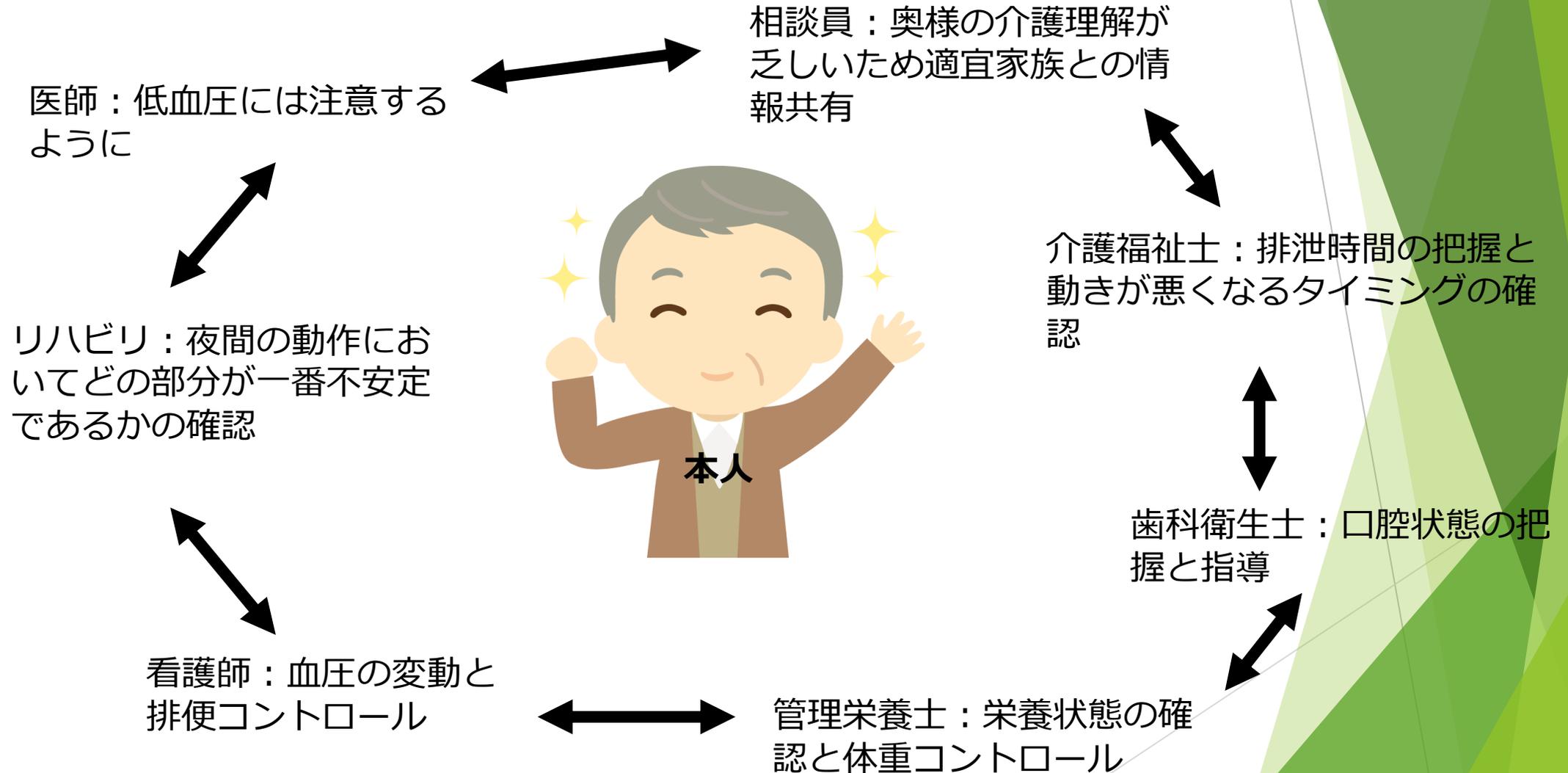
- ・入所当初からセンサーマットを使用。
(入所時は排泄動作は不安定であり、見守りが必要であったため)
- ・自宅での生活時と同じ方向へ起き上がれるようにベッドの向きはセッティング。
- ・夜間はポータブルトイレ使用での排泄を評価。
➡ フロアスタッフが動作の評価を実施。

その後、フロアスタッフから、夜間の排泄動作が安定しているため、フリーへ移行できるのではないかと相談あり。

- ➡ センサーマットの位置について検討を行い、排泄動作をフリーへ変更。
※センサーマットは、朝の起床時の歩行状態の確認のため、写真のように設置。



<在宅復帰にむけた各職種の対策>



<退所前訪問とADL>

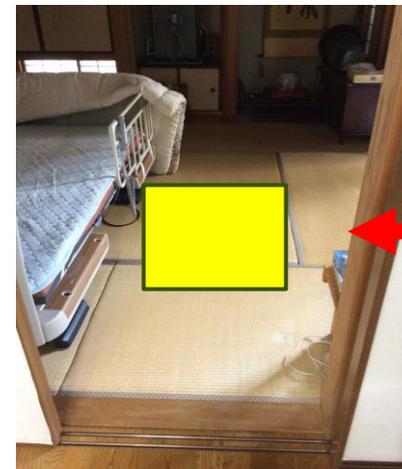
項目	点数 (入所時)	点数 (退所前訪問時)
食事	10	10
移乗	10	15
整容	5	5
トイレ動作	5	10
入浴	0	0
歩行	10	10
階段昇降	5	5
更衣	5	10
排便コントロール	5	5
排尿コントロール	5	5
合計	60点	75点



歩行車の導入



歩行車使用のため
ベストポジション
バーの撤去



Pトイレ設置
就寝から起床まで
使用

<退所前訪問指導内容>

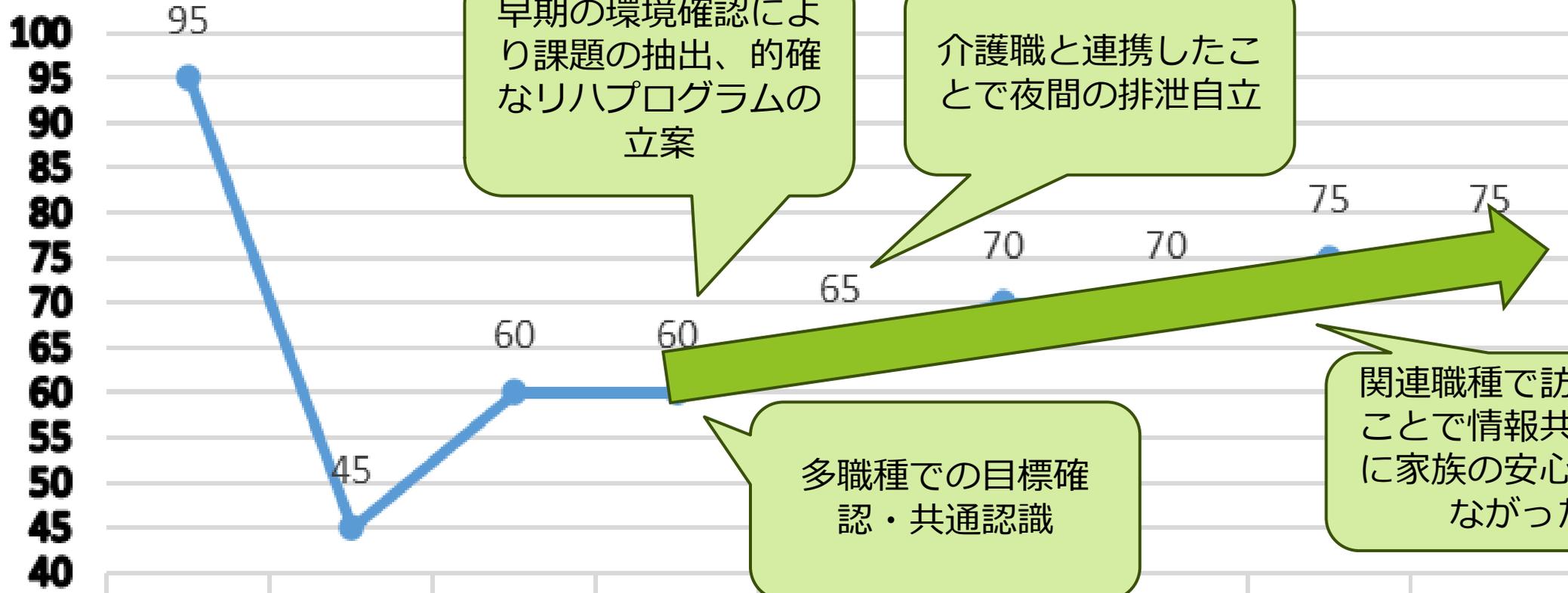
【退所後の注意点】

- ・ 自宅にいる際は必ずエアコンをつける。
- ・ 適切な時間で水分補給をする。
- ・ 自宅内の移動は必ず歩行車を使用する
- ・ 杖歩行はセラピストが許可を出してから使用する。
- ・ 自宅外の移動は、必ず付き添いのもとで行う。
- ・ 自宅での入浴はシャワーを含めて行わない。
娘さんか息子さんが見ている環境であれば、シャワーのみ可。
- ・ 就寝から起床までの排泄(トイレ)は、ポータブルトイレを使用する。

※上記内容を書面にて本人交えて指導実施。

考察

在宅～在宅までの経過



在宅	3月28日	6月3日	6月7日	6月18日	6月29日	7月6.7日	8月9日	8月13日
	入院	入所	入所後訪問	センサーoff	外出	外泊	退所前訪問	退所

<まとめ>

- ▶ 今回、妻が認知症がありながらも在宅生活を希望する利用者の在宅復帰における訪問活動が有効な症例を報告した
- ▶ 多職種で目標共有し、本人の状態に合わせた環境の設定や対応を行い、早期の在宅復帰につながった。
- ▶ 訪問をしたことで、家族との面識が早期にとれ、協力を得やすい関係性づくりができた。
- ▶ 入所前のサービス利用状況について情報収集が不十分な点があったため、入所後訪問時に情報収集が行えていれば、より良かった。
- ▶ 超強化型老健としての早期の在宅復帰ができ、今後も継続した役割を果たしていきたい。

ご清聴ありがとうございました。